

quin7aine
DIRECTORS' FORTNIGHT
CANNES 2022

NYFF60
2022 Official Selection

Official Selection
tiff
Toronto International
Film Festival 2022

私たちはまだ、人間を知らない

DE HUMANI CORPORIS FABRICA

人体の構造について

監督:ルーシアン・キャスターヌ=テイラー、ヴェレナ・パラベル
『リヴァイアサン』『カニバ』 9人肉事件38年目の真実

製作:ボリス・ジギヤクス(『ぼくの名前はズッキーニ』)、マックス・カルリ、ヴァレンティナ・ノヴォグティ

共同プロデューサー:シャルル・ジリベール(『アネット』)、ルーシアン・キャスターヌ=テイラー、ヴェレナ・パラベル

原題:De Humani Corporis Fabrica / 時間:118分 / 2022年 / フランス・スイス・アメリカ

フランス語 / 日本語字幕・橋本裕充 / 字幕監修:養老孟司

提供:TBSテレビ 配給:トランスフォーマー、TBSテレビ



生と死をつなぐ場所、そこで働く人々。彼らの視点で見つめるのは人間。肉体。その内部。

a film by VERENA PARAVEL AND LUCIEN CASTAING-TAYLOR camera, sound and editing VERENA PARAVEL and LUCIEN CASTAING-TAYLOR first assistant director, camera, editing JULIETTE PICOLLOT picture design PATRICK LINDENMAIER
sound design NICOLAS BECKER sound editing MATTHEU BILLET and RABHAÏL SORIER sound mixing BRUNO EHLENGER producers VALENTINA NOVATI, CHARLES GILLIBERT, PAULINE GYGAX, MAX KARLI, VERENA PARAVEL, LUCIEN
CASTAING-TAYLOR produced by NORTE PRODUCTIONS, CG CINEMA, RITA PRODUCTIONS, S.E.L. with the support of CNC, RÉGION ÎLE-DE-FRANCE in partnership with CNC, PROCIREP and ANGOA, OFFICE FÉDÉRAL DE LA CULTURE (OFC)
with the participation of CINEFORUM and the support of LOTÉRIE ROMANDE SUCCÈS PASSAGE ANTENNE SRG SSR FESTIVAL DU FILM DE LOCARNO - FILM AFTER TOMORROW - MOST INNOVATIV FILM, LES FILMS DU LOSANGE,
HARVARD UNIVERSITY: SENSORY ETHNOGRAPHY LAB, HERESPOURCE CENTER, DIVISION OF THE ARTS and THE HUMANITIES, FACULTY OF ARTS AND SCIENCES
with the support of ASSISTANCE PUBLIQUE HÔPITAL-UNIVERSITÉS PARIS: BEAUMON, BICHAT, CLAUDE BERNARD, BRETONNEAU LOUIS-MOURIER, ARMAND TROUSSEAU distribution france and international sales LES FILMS DU LOSANGE



お見せしよう、“生命”の裏側を。

小腸粘膜萎縮
脳室開口術

胎盤早期剥離
緊急帝王切開

網膜硝子体手術

脊柱側湾症

膀胱鏡検査

レチウス腔温存ロボット支援
前立腺全摘除術

エンゼルケア 認知症

ふだんは見られない手術時の臓器や
内視鏡の映像が見られる。

これは貴重な体験になると思う。

養老孟司(東京大学名誉教授)

『リヴァイアサン』(04)で世界的な名声を集めたルー
ジャン・キャステヌ=ティラーとヴェレナ・バラベルの
ハーバード大学感覚人類学研究所の人類学者
監督コンビ。彼らの新作は、パリ北部近郊の5つの病
院のオペ室を舞台に、医師視点のカメラや内視鏡
を使い、脳や大腸、眼球、男性器など様々な外科
手術や帝王切開の模様を医師の視点で見つめて
いく。最新の医療用カメラの映像精度には驚かされ
るが、それだけではなく、死と隣り合わせの医療従事
者達の日常も描かれ、「社会を映す鏡」としての病
院自体の解剖研究としても観ることができる。

本作はカンヌ国際映画祭監督週間上で上映された
のち、現在もメタクリティックのスコア92、ロットントマト
95%FRESHと高く評価されている。

人体の構造について

カンヌ国際映画祭 監督週間出品 原題:De Humani Corporis Fabrica / 2022年 / フランス・スイス・アメリカ / フランス語 / 日本語字幕・橋本裕充 / 字幕監修:養老孟司

監督:ルージャン・キャステヌ=ティラー、ヴェレナ・バラベル(『リヴァイアサン』『カニバ パリ人肉事件38年目の真実』)

製作:ポリヌ・ジギャクス(『ぼくの名前はズッキーニ』)、マックス・カルリ、ヴァレンティナ・ノヴァティ

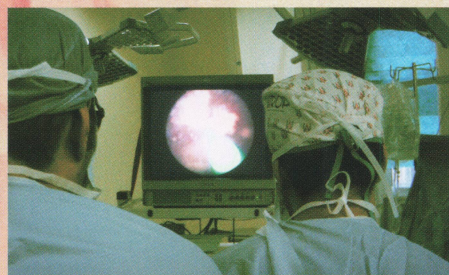
共同プロデューサー:シャルル・ジリベール(『アネット』)、ルージャン・キャステヌ=ティラー、ヴェレナ・バラベル

提供:TBSテレビ 配給:ランスマフォーマー、TBSテレビ © Norte Productions - CG Cinéma - S.E.L - Rita Productions - 2022

<https://transformer.co.jp/m/jintai> X@jintai_movie



パリのとある大病院。当直の看護師たちの会話。
「集中治療室で働くと、毎日死と向き合うから『今日
を楽しまなければ』と思うの」。ある手術室では、内
視鏡の映像が脳を内部から治療する様子をモニ
ターに映し出している。別の部屋では、あまりの忙し
さに医師が愚痴をこぼす。「毎週100人の患者を診
て20人手術している…異常だ」病院の大動脈のよ
うな廊下を徘徊するのは、個室を抜け出した認知
症患者とそれを追う医師たち。静かな時を刻んでい
た地下の遗体安置所にも、次々と新たな遗体が運
ばれてくる。長い1日はまだ始まったばかりだった…



本作には刺激が強いと
感じられる映像が含まれています

PG12
観 覧 可 能

11.22(金)より公開

明治通り沿い 地下鉄B1 出口正面 ココチビル8F

テアトルシネマグループ

ヒューマントラストシネマ渋谷

03 (5468) 5551 ttcg.jp

有楽町イトシア イトシアプラザ4F

テアトルシネマグループ

ヒューマントラストシネマ有楽町

03 (6259) 8608 ttcg.jp